

☆ 本製品は新しい発想と、製造技術開発により生み出された製品です。  
素材は数多くの特長を持っておりまして、一般住宅でも広く使われております。

- このたびは、当社製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様などの危害や損害を未然に防止するものです。表示記号の内容を良く確認したうえで本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

### 安全に関する記号

### 記号の意味



#### 警告

- 取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



#### 注意

- 取扱を誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容または物的損害のおそれがある内容を示しています。

#### <施工の前に>



#### 警告

- 本製品は隣地との境界を目的に設置するものです。転倒防止を目的とした防護柵・歩行補助を目的とした手すり等として使用しないでください。
- 本製品の施工には別売『バー材（板押え材）』または『平大ドリルネジ（直止め仕様用）』が必要です。使用しない場合、本体の伸縮により反り・割れが生じる場合があります。



#### 注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

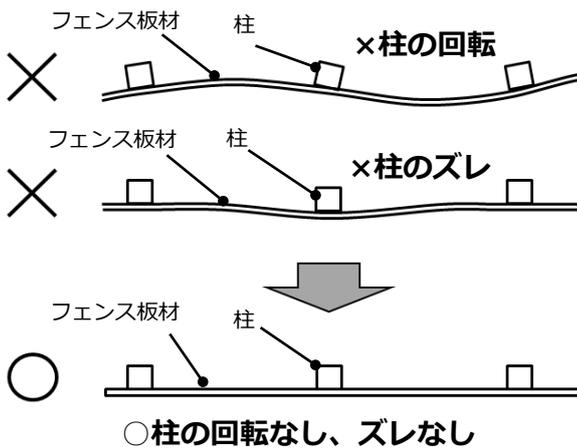
#### <施工上のご注意>



#### 注意

- 施工前にフェンス板材本体を太陽光に当てないで下さい。部材が伸縮するおそれがあります。
- 強い衝撃を与えないでください。変形やキズ付きの原因となります。
- フェンス本体板材の化学的性質は弱酸性・アルカリ・塩類等には優れた抵抗性を持っています。有機溶剤や石油類に侵されやすいので、触れると変色する原因となります。
- 火気があたり続けると軟化や融解をします。火気は近付けないでください。
- 柱のピッチは柱芯々1000mm以下で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。柱にV溝がある場合、V溝のある面が板を取付ける面になります。柱の施工向きにご注意ください。
- 柱はアルミメーカー品を使用して、施工してください。
- フェンス本体の取付については、フェンス板本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。
- フェンス本体板の施工につきましては、バー材または平大ドリルネジをご使用ください。
- 柱は施工現場の状況（風圧など）を考慮し、指定以上の角・肉厚で十分強度を確保した柱をご使用ください。
- 製品の特性上フェンス本体板材には色差・色ムラがあります。
- 腐食性ガスや海水、あるいは砂塵にさらされるような環境や、積雪地帯で使用する場合には、設置場所の環境を十分に調査の上ご使用ください。

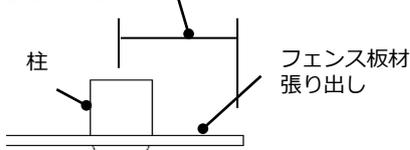
## ■基礎工事について



### 注意

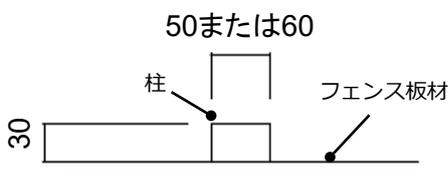
- 板材取付面が直線になるように柱を設置してください。板の曲りの原因になります。
- 柱が完全に固まってからフェンス板本体を取付けてください。
- 柱のピッチは、柱芯々1000mm以下で施工してください。
- 両エンド部の柱は下図のように施工して板材を張り出すと美しく仕上がります。張り出しは150mm以下にしてください。

板の張り出しは、柱芯～150mm以内としてください。



※この図はバー材施工を示します。

- 柱は必ず垂直に施工してください。
- 柱の埋込寸法は必ず守って施工してください。強風による飛散・倒壊事故の原因になります。
- フェンス板本体に同梱している取付説明書をご確認ください。
- **50×30・60×30角柱の場合は、50または60の面にフェンス板材を取付けてください。**



### 注意

- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤・凝固促進剤・急結剤など）は使用しないでください。

アルミなどの金属が腐食する原因になります。非塩素系または非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

- 指定埋込寸法は必ず守って施工してください。

## ■施工手順

### 1 柱の施工

柱部材	サイズ (mm)	L (mm)	許容最大 H寸法 (mm)	埋込寸法 (mm)	基礎寸法(参考) (mm)		
					G1	G2	G3
アルミ柱	50×30(t=1.5/1.2)	1000	800	200	180	180	450
	60×30(t=1.5/1.2)	1200	1000	200	180	180	450
	40×40(t=1.5)	1500	1200	300	180	180	450
	50×50(t=1.5/1.2)	2000	1600	400	300	300	450
	60×60(t=1.5/1.2)			500	300	300	500
	60×60(t=1.5/1.2)	2300	1800	500	300	300	500
	70×70(t=1.7/1.2)	2500	2000	500	400	400	500
コト柱	40×40(t=2)	1000	800	200	180	180	450
		1200	1000	200	180	180	450
		1500	1200	300	180	180	450
		2000	1600	400	300	300	450
	52×52(t=2.4)	2500	2000	500	300	300	500
		2700	2200	500	400	400	500

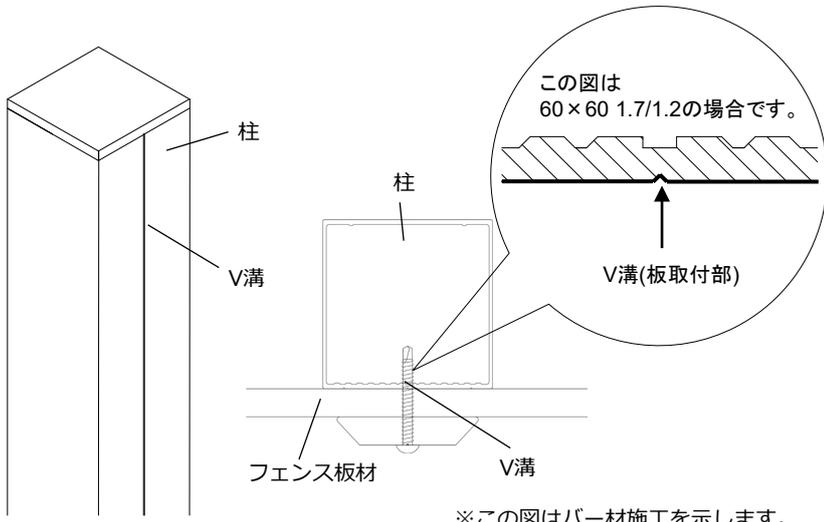
※基礎寸法数値は参考寸法です。

保証値ではございません。

※風当たりの強い場所では、より強度のある柱・基礎施工をしてください。

※目隠し性の高い高尺フェンスは基礎石での施工は避け独立基礎施工としてください。

※60×30角柱の場合にはブロックの穴形状によりコア抜きが必要になる場合があります。



※この図はパー材施工を示します。

**注意**

- 柱にV溝がある場合、V溝のある面が板を取付ける面になります。柱の施工向きにご注意ください。

サイズ	V溝の数
50×30	1ヶ所
60×30	3ヶ所
50×50	1ヶ所
60×60	3ヶ所
70×70	3ヶ所

- V溝は柱の角数で異なります。

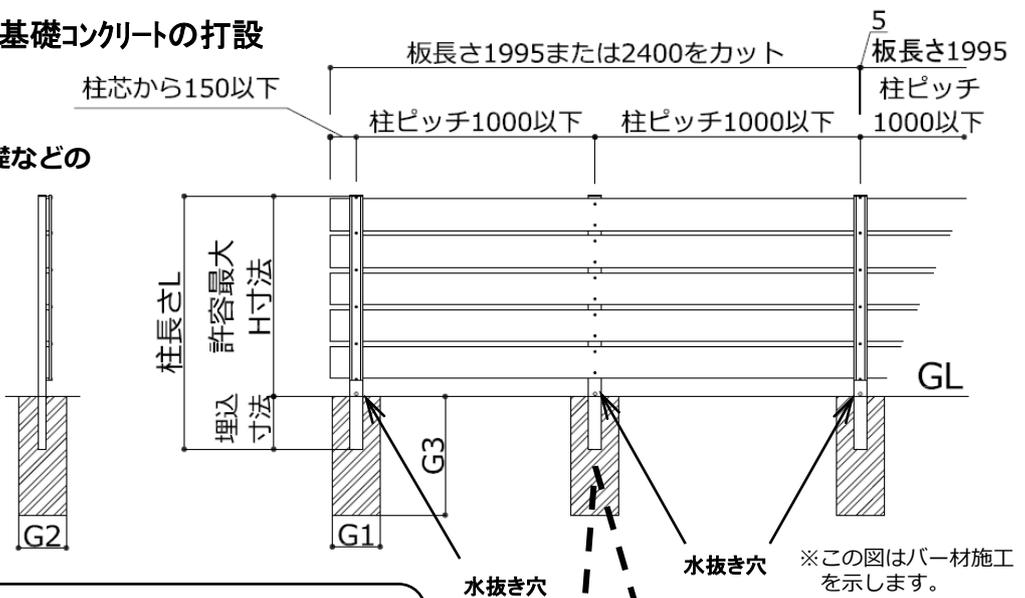
**2 水抜き穴の加工・基礎コンクリートの打設**

柱に水抜き穴をあけます。

柱芯から150以下

※ブロックもしくは独立基礎などの基礎天端より上の部分に水抜き穴をあけます。

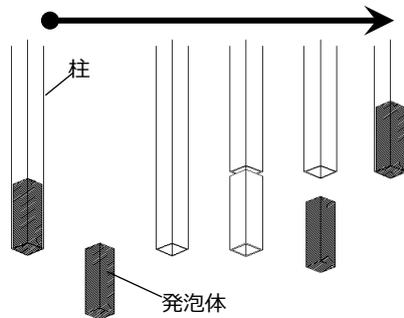
- ※板の長さは1995mmまたは2400mmです。板ジョイント部にはすきま5mmが必要です。
- ※板の長さ2400mmは端部用となります。柱ピッチ1200での施工はできません。



**注意**

- 必ず柱に水抜き穴をあけ、柱穴に柱を立て、モルタルを打設してください。
- ※モルタルを打設後に柱を立てると柱内部に水がたまり、凍結破損の原因になります。

**3 柱の現場切詰めとブロック施工について**



L1500以下のブロック施工可能な柱には、柱脚に発泡体を挿入しています。柱の切詰加工をする際には、発泡体を抜取ってから切断加工し、再度挿入してください。

**注意**

- ブロックまたは基礎石施工の場合、発泡体のない状態で柱を施工すると凍結破損の原因になります。
- 高さH1200 (L1500) 超はブロック施工ができません。
- 高さH1200 (L1500) 超の場合、基礎石の施工は避け、独立基礎施工としてください。

株式会社 *F & F*